

---

# バカとエクソシストと召喚獣《イノセンス》

きこりん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとエクソシストと召喚獣<sup>イノセンス</sup>

### 【Nコード】

N7649Z

### 【作者名】

きこりん

### 【あらすじ】

「君たち、学校に行ってみないかい？丁度良いところがあるんだ」コムイの計らいで、初めて学校に通うことになったアレン、神田、ラビ、リナリー。しかし彼らが通う学校 文月学園 は、ちよつと変わった学校だった。 バカテスの世界にDグレティーンズが参戦！そしてコムイの計らい（策略）はこれだけではなかつた！？ギャグコメディ風味、バカとエクソシストと召喚獣<sup>イノセンス</sup>！！

【第一話】不安な呼び出し〜アレン・ウォーカー〜（前書き）

にじファンへは初めての投稿!! 3  
はじめまして きこりん です。

今回はクロスオーバー作品、バカとエクソシストと召喚獣<sup>イノセンス</sup>を  
のんびりですが進めて行こうと思います

拙い分ですが、よかつたら読んで行ってください> (´) (´) (´) <

## 【第一話】不安な呼び出し〜アレン・ウォーカー〜

ある晴れ晴れとした夏の日の昼下がりに

白髪の少年アレン・ウォーカーは、いつも一緒にいるティムキャンピーと共に室長室へ続く薄暗い廊下を歩いていた

…いかにも嫌そうに

それと言うのも今から20分ほど前

食堂で山盛りの食事を目の前にして至福の時を過ごしていたアレンのもとに、任務ではない呼び出しが伝えられたことによるものだった。

「アレン、室長が呼んでいたぞ。食事が終わってからで良いから来いとき。」

「任務じゃないんですか？」

「どうやら違うらしい。俺も詳しいこと聞いてないからなあ」

リーバー班長から伝えられたそれは、アレンに苦い過去を思い出させる。

むろん、たびたび教団を壊滅させそうになる問題児（？）、コムイがらみの事件である。

伝えに来たリーバーも、眉を八の字にして「まったく室長は…。」とため息をつきそうな雰囲気だった。

いや、言っていたかもしれない

そんな経緯で、しっかりと昼食を食べ終えたアレンは室長室へ向かっていった。

重そうな、しかしいつもあけ慣れている室長室の扉の前に立ち「いや、待てよ」と考えなおす。

ここまでマイナスなことばかり考えてきたが、曲りなりにもコムイはここ黒の教団をまとめる人間（のはず）だ。もしかしたらこの呼び出しも、僕とリーダー班長の予想に反して、何か（危険なことじゃない）重要なことかもしれない。

そう思い、「大丈夫だよね」と頭上で羽ばたくティムキャンピーに声をかけたアレンは

室長室の扉をゆっくりと押し開けた。

【第一話】不安な呼び出し〜アレン・ウォーカー〜（後書き）

きこりん「お初にお目にかかります、きこりんです」

アレン「バカとエクソシストと召喚獣<sup>イノセンス</sup>、始めましたね」

きこりん「長くて言いづらいから『バカエク』でいいよ」

アレン「なんだかその響き、府に落ちないのですが…まあいいや。」

きこりん（良いんだ…^^;）

アレン「ところで、なんで僕が後書きにまで出てるんです？」

きこりん「それはね…楽しそうだから」

アレン「正直に言ってください。真似てるでしょう？」

きこりん「う…だってリスペクトしてる色々な方々の小説見て、やりたくなったん  
だよお」

アレン「イミテーション」

きこりん「いえ、リスペクトです。」

アレン「まあ、いいです。そういうことしておきましょう」

きこりん「さすがアレンさん。お心が広い」

アレン「紳士ですから」

きこりん（自分で言うか…）

アレン「言わせてるのはあなたでしょうっ？」

きこりん「？」「めんなさい」

アレン「というところで、こんなggggな作者へのアドバイス、メッセージが

ありましたら

アレン・きこりん「」お待ちしております…！」「」

きこりん（なんかそれとなくぐさっときたが…？）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7649z/>

---

バカとエクソシストと召喚獣《イノセンス》

2011年12月25日00時57分発行